

キリシタンの墓

迷路（3）

小山牧子

え・石阪春生

あらすじ 二年前短期大学を卒業した佳は、母親蘭子との生活に息づまりを感じ、米国系海運会社のエイジェントに勤めに出ることにした。ある夜ボスのヒギンズ氏とともに訪れた頬成寺の墓地のくらがりで村重船長と呼ばれる老人に会い、佳はこの老人の部屋で褐色に色をかえた若い頃の自分の父、村林裕作の写真を発見する。動転した佳は、母蘭子からくされた自分の知らない秘密をさぐりだそうと思い、ひそかに父の部屋にしのびこむ。

ノックの音と共に佳の部屋に入ってきた蘭子の、頭のてっぺんから白足袋をはいた足の先まで、十二分に神経をゆきとどけた渋好みの外出着姿を見て、佳の胸は、踊りあがらんばかりにわくついた。と、案の定、蘭子は少しソプラノ気味の緊張した声でいう。

「出掛けれるわ、ケイ。今夜は少し遅くなるかもしれないけど……」

「いいわよ、ママ。食事は、自分で好きなものを作つて勝手に食べるから」

佳は、蘭子の盛装をうさん臭げになめまわしたり、不機嫌な答えを返すといつたいつもの習慣を忘れ、いそいそと見送りに立つた。この日、この瞬間を、千秋のともいで佳は待つていたのだ。

むんむんと繁茂する検葉垣の繁みのかけに姿を消す前

の一瞬、蘭子は、窓から身を乗りだして見送る娘を振りかえり、手をあげてみせ、佳もまた上機嫌でそれに答えた。

蘭子の姿が視界から完全に消え去ったあと佳は、華やりだ雰囲気をもつ蘭子の風姿に、一沫、暗いかけりが刻まれていたことに強く心を残した。振りかえったときに娘の方にむけた意味のない微笑は、その姿が視界から消えると同時に、佳の盲膜にとどまることなく完璧なまでにぬぐい去られる。が、かすかながら宿る淋しげなかけりだけは、残像となつて、佳の脳裏に焼きつき、いつまでも消えない。

——なぜだろう。新しい歌ができたあと、いつもいそいそと歌仲間のところへ出掛けでゆくのが、ママの習性だのに、なぜあんなふうに、どこが陰気なのだろう——佳は、四日前、父の部屋に忍びこんだ夜ふけ、そこでとり交わした蘭子との会話を反讐してみた。

書棚の下にある鍵のかかる抽出しを何度もがたびしいわせ、あげくの果て尖った細い金具などを差しこみ、一応、深夜、無人の事務室に忍びこんだコソ泥がやるだろうと考えられることともを、いつて無器用に試み、どれもラチがあかぬまま疲れ困憊したあと、その抽出しを最

近だれかがかきまわした形跡のあることを発見し、まず最初、「その犯人を母の蘭子であろうと推理したそのとき、背後で人の気配がしたのである。振りかえると、予想したとおり、当の蘭子がドアのかけに立っていた。

「ケイ、一体どうしたというの？ こんなに遅く……」

狼狽しながらも佳は

「眠れないだもの。英語の勉強でもしようと思つて辞書を探しているの」

「辞書？ 辞書なら、佳が持つてゐる方が新しくて重宝なはずよ……」

「だつて、わたし辞書のたぐいは、全部、事務所に持つていつてある。会社の仕事で必要なんだもの」

「そう……」

ぬけぬけとした嘘をつく佳に疑わしげな視線をむける蘭子であったが、それ以上にとがめることはできない。

父とはいえ、他人の部屋に忍びこんでいるところを蘭

子に見られ、ひとときは狼狽した佳であつたが、いきあたりばつたりにしゃべつて聞かせた嘘の言葉が、奇妙にも心を安定させる役割を果たした。で、体制をたてなおした佳は、部屋の真中から真直に蘭子を見つめ、意地悪く言葉を尖らせたのである。

「パパの留守の間、ロクにお掃除をしてあげたこともないママでも、だれかがパパの部屋に侵入したとなると、やはり気になるらしいのねえ」

鋭い佳の舌峰の前に蒼ざめている蘭子には、常の蘭子らしい豊かさはない。

この時間の蘭子は、眠るにまだ早く、きっとあの密室の部屋の中で、白い紙に大きな字で、言葉を書きつけては破り直して、は破り直してはまた書くというむなしい作業を続いているはずである。そんなとき蘭子の顔は、まったく見られたものではない。蒼白な顔と、眉間に刻まれた刀傷のよう深い一本の皺。唇は乾ききり、目だけを

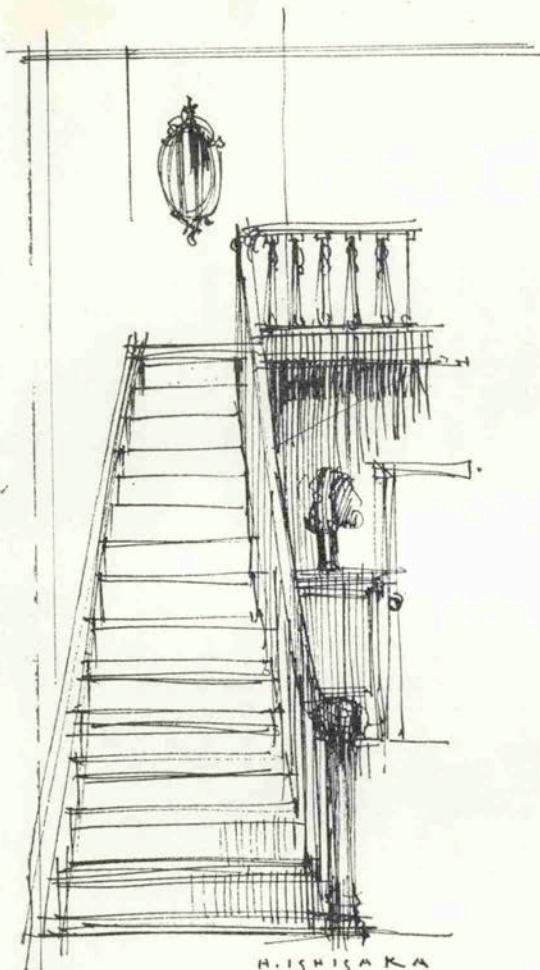


ランランと光らせて いるのだ。

たとえ抽象的なものであつたとしても、いや、抽象的なものにかかる女であるからこそ、その種の何かを生みだしている女たちは、同じ作業をしている最中の男たち以上に醜悪な面相になる。獰猛な顔で心の両肢ふんばつてウンウンとうめき、中には、あられもなく咆哮する牝郎どもいるに違いない。ともかく、胎児を生みおとすのと同じほどの悲愴感を身辺にみなぎらせながら、蘭子のような女は、いたつて生理的に、短歌の創作という作業をやらかすのである。

深夜、父の部屋で出会ったときの蘭子は、常々の蘭子獨得の言葉をかりていうならば、地上に存在する最も崇高な行為であるその創作なる仕事を終えたあとだったのだろう。蘭子の顔には、産褥にある女たちに共通の疲劳の色と虚脱感がありありとうかがえ、目のふちは褐色のクマまで作つている。

長年、蘭子の自我の強い生きざまな鼻つきあわせて暮



らしてきた佳には、その夜の蘭子の顔つきから、蘭子が最も貧弱な卵を生みおとすメンドリさながら、一篇の短歌を創造したのであろうことがうかがえた。が、苦痛にたえながら、その身にふさわしい卵を生みおとしたあと、真紅のトサカを振りたて、高らかに鳴きたてるあのメンドリさえもがもつてゐる生むことへの誇りは、その夜の蘭子の表情にはなかつた。いつも蘭子ならば、そんなふうに苦しみ、一篇の作品を生みだすと、早速、深夜であることもお構いなしに、歌仲間を電話で呼びだし、新作を披露する。それは、蘭子にとっては、ちょうど卵を生んだあのメンドリが鳴きさわぐに匹敵する行為なのである。

それに今度の場合、蘭子のスランプは長かつた。脇坂紫峰なきあと、蘭子が属する短歌グループの若手の発言が活発になり、彼等の理論に引きずられて、グループ 자체が新しい歌の時代を創りだそうとしているとき、師を失い浪漫的な抒情を唯一の武器にする蘭子の古さは若い

書手たちの恰好の攻撃目標になつた。蘭子は、四圍を厚い壁にはばまれ、手も足も出ずうずくまつてゐたのだ。その厚い壁を打ちやぶるための才も力も、いまの自分にはない、と、絶望的にさえなつてゐた蘭子ではないか。

その蘭子が、再び歌うことができた。四圍をとりまく厚い壁を、みずから手で打ちやぶり、蘭子は再び歌をとりもどしたのだ。常の蘭子ならば、こんなとき、たとえ疲労と虚脱のきわみにあつたとしても、あのメンドリたちの無心さそのままで、高らかに勝どきの声をあげるはずではないか。が、その夜の蘭子は違つていた。裕作の居室からかすかに伝わる人の気配に、素足のまま足音を殺して階段を登り、広間を横切り、たどりついた部屋で何かを懸命に探しはじめる娘の姿をみとめ、愕然と蒼ざめ立ちつくす。佳は、むきあつて見えた蘭子の顔に、いつもの創作の作業を終えたあとの満足した表情とは違う、満足しきれぬあるものを見たとおもつた。

——なぜだ？なぜママは、蒼ざめているのだ？なぜ震えているのだ？——蘭子は、その夜、佳の強い目に見すえられると、怯えたように身をさけ、いつも一席やるような自信にみちた母親らしい言葉をつらねた説教の一言も残さず、裕作の部屋の前から姿を消し、自室に帰つた。

廣間を踏んでゆく奇妙に頼りなげな足音を聞きながら、佳は頭の片隅で、蘭子の足が踏んでゆく跡を追つた。その足跡をたどる先に、蘭子の部屋がある。

裕作の部屋に失望した佳は、その先にある蘭子の部屋にこそ、あの何者かによつて搔きまわされた閉じた抽出しの鍵、といつよりも、佳が追求して止まぬある人間の実相がかくされているに違ひないとおもつた。

で、佳は、まつたく千秋のおもいで、蘭子の外出の日を待つていたのである。

一人になつた佳の脳裏から、華やいだ風姿をもつ蘭子のかげりの部分の残像がいつまでも消えない。佳の蘭子を追求してゆく目は、いつか外科医のようく冷徹なものになつていて、あのかけりは、深夜、父の部屋でむきあつた蘭子の上にも濃く垂れこめていたものだつた。そう察したとき、佳の胸のうちで推理とか仮説程度のあやふやな存在があつたものが、はつきりとした確信へと固まつてゆくのである。と、同時に複雑にからみあい曖昧模糊としていた迷路の中の一本の道だけが、白い光芒を放ちながら浮きあがつてきた。蘭子の部屋にこそ、探し求めているものがある！佳は、魂をうばわれたもののように立上り、蘭子の部屋にむかつた。

(つづく)

★新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

<6月号予告>

☆特集 現代の住宅

プレハブ住宅の豊かな居住感をさぐる。

☆座談会 三村浩史

片岡益也

ガイド プレハブ住宅展示場一覧

レポート プレハブに住まって

インタビュー プレハブ住宅のチェックポイント

☆現代をリードする企業

ウシオ工業 牛尾吉朗

☆連載対談 中村雁治郎 大鋸時生

☆京の宿 倭屋 邦光史郎

☆商売の最前線 あり善 亀井達次郎

創作 仲谷和也

連載小説 猿飛佐助

神坂次郎

☆グラビア 競艶 夏姿 桃温 猿股

テレビ新人ホットパンツ競演

関西の洋画家 7人

And his Ladies 朝比奈 隆

表紙 池田遙邨

カット 河野通紀

☆オール関西編集部

大阪市北区曾根崎一丁目三〇

八千代会館三階 06-313-2635・0588

オリジナル L サイズ

草履新発売

創業明治二十一年
履物の山下
古い老舗に新しいセンス

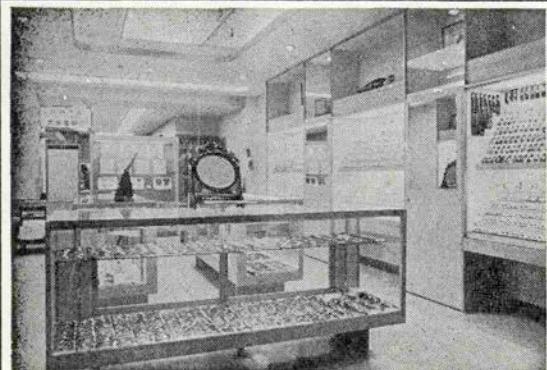
確実正札 完全冷暖房
静かに品選びの出来る店
神戸三宮センター街 TEL (39) 0256



ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを！

三恵洋服店

元町4丁目 TEL 347290



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町4丁目 TEL 336195



Mr. Kent
came to Kobe
流行に左右されない
本来のオシャレ
それがKentです
シックな
スコッチ風の店舗
それがFunakiyaです

Kent shop

フナキヤ

元町3 TEL 320356

支店 さんちか味のれん街
(第3水曜日休み)

本店 大丸前・三宮神社東
TEL 03-5233-3233
(毎週水曜日休み)

TEL 03-5567-7732
(4)

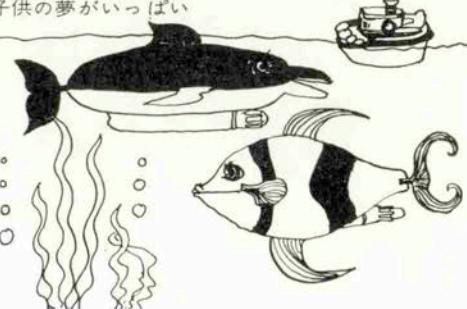
おすん
てんぶら

榮彌

営業時間
A.M.11.30～P.M.9.00



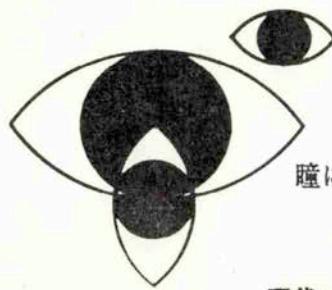

子供の夢がいっぱい



おもちゃの カメヤ

三宮方面のお賣物は……
さんちか店 ファミリー タウン 03-4045
三宮店 センター街大洋劇場東隣 03-4969

元町方面のお賣物は……
元町店 元町通3丁目山側 03-0090
パンプス店 元町通1丁目不二家前 03-0768

瞳に美しさを保つ
スポーツに
美容に
現代の科学が生んだ
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員
国際コンタクトレンズ研究所

神戸市兵庫区御幸通八丁目九ノ一（三宮駅前）
神戸国際会館内 TEL (22) 8161・(23) 2570

高級紳士服専門店
神戸テーラー



さんちかメンズタウン TEL 03-0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL 03-2817-3173

酒徒なれば
だれもが選ぶ
灘の生一本
大黒正宗

清酒 大黒正宗

安福又四郎商店醸

やつぱりうまい
まさしのどんかつ

でんわ・33
32 32 33
一一〇
六六三七一
二三四一

コラボ三宮
サムライ



スタンド

菴 香

リラックスした
ひとときを……

桑畑房子

コウベビル地下
TEL 33-6763



北海道特産のヒモノの味が楽しめる店

スナック ドナドナ

下山手通1丁目5 ゼウスタウンビル地下
TEL 39-1200

居酒屋

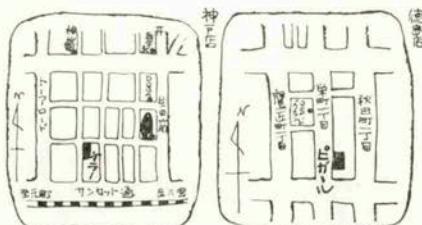
ケ ラ ー

神戸市生田区北長狭通2丁目
金剛山西入る (078) 39-1590



★居酒屋ケラーは、生田筋金剛山を西に150m南側にあるお店。ランタンのともるドアをあけると15人ぐらいがかけられるスタンドの奥から安福敏之さんこと安っさんがあいそのいい笑顔で「いらっしゃい」と迎えてくれる。

この七月で三周年を迎えるケラーは、この安っさんの気さくな人柄にひかれてくるごひきも多く、また鳥専門のカラゲや焼鳥、ピカタなどをサカナにのめるのでんのよし、たべてよし、空腹もよしと三拍子そろっている。奥には世界のミニチュアが400本もあつめてあってこのミニ・コーナーでは、月曜日に向田俊彦、奥田大二郎さんのラーメンコギターが午後7時～10時30分までける。安さんの他に三人のバーテンさんと女の子も軽快にしゃべれる人たちで、スタッフもよく揃っている。手造りの鎌倉など安っさんの作品がドイツ風にインテリアに暖みを加えている。ビール(200円)オールド水割り(350円)。午後6時～12まで。

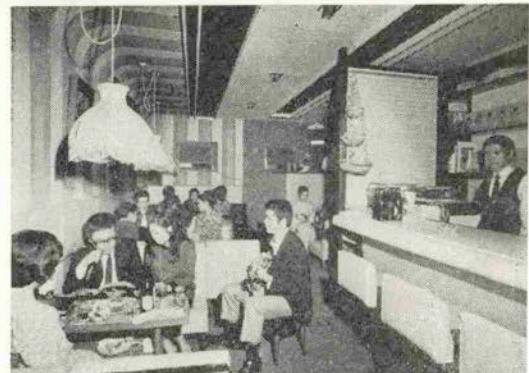


DRINKING

クラブ

ジ ャ ル ダ ン

生田区中山手通1丁目111
T E L 33-8589



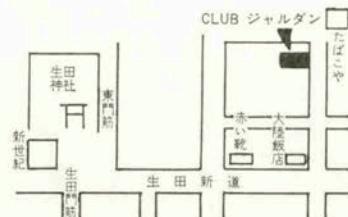
★6月の神戸はフラワーに始まり、神戸の夜は「ジャルダン」で懇意が始まる。三宮生田新道の大絶飯店を北に上ると左手、トントンと階段を昇りめるとクラブ「ジャルダン」の花園が待っている。

カウンターで伸びたバーテンさんを相手にするもよし、ポックスで気楽にグラスを傾けるもよし、またギターに合わせて歌うもよし、日頃のウサもふっきれる楽しい花園だ。きれいな花に囲まれて飲む酒も酔いを誘う。

マスターの岩戸秀能さんとガンちゃんのキップの良さが店に反映して、さわやかなクラブとなっている。

神戸を訪れる人の多い昨今、さあこんなクラブが神戸にもあるのですと気楽に誘い連れてこれる安心な店だ。ガンちゃんと親しくなるほどに店の良さが分るというから、得なマスターである。

午後6時から12時まで。



曲線ハイウェイ

武田繁太郎
え・横塚繁

横井は、カンのいい男だった。多木が、二人の娘のうち、ミニ姿の辰馬英子のほうに好感を抱いたことを、彼は、すばやく察したらしかった。

ひとしきり、にぎやかに呑んだところで、岡本がまたルミを連れてフロアでいくと、横井は、さりげなさそうに、石丸圭子というパンタロン姿のほうに、「踊ろうか」と、誘いかけ、彼もまた、石丸圭子の腕をとつて、岡本たちのあとを追つた。

これはあきらかに、多木と辰馬英子を一人だけにしておいてやろうという、横井の思惑にちがいなかつた。

だが、多木は、辰馬英子と二人きりになると、かえつて二人きりになつたことで、妙な気づまりをおぼえた。いつたい、こういう氣の使い方をする横井の本意は、どこにあつたのか。

遊び好きの女の子を電話でよびだし、多木にひきあわせたうえで、

「あとは、あなたの腕しだいですよ」と、横井は言つてゐるのだろうか。

この辰馬英子を、東京の、赤坂や六本木あたりを野良猫のようにうろついてゐる短大生やBGたちと、おなじように扱つてもいいか。

★あらすじ 浜名湖サービスエリアで、多木洋介は若い神戸の女性、宇津康子と知り合い、一夜を過ごした。その後も、十日か半月おきにディトの電話をかけてくる康子と、多木はMVハードトップを駆って逢瀬を重ねた。康子の正体を知るために、多木は神戸出身の友達、岡本和彦とその女友達ルミと共に神戸へやって来た。康子の居所を見出せぬ多木の前に彼女の面影に似た辰馬英子が現わされた。

それとも、今夜の歓待に花をそえるという意味あいだけで、若い娘たちをよんだというのだろうか。

多木には、そのどちらともわからなかつた。横井の肚のうちが読みきれなかつた。そういう不確かさが、いつそう彼を気づまりにしていた。

辰馬英子が、なまじ宇津康子と似たタイプだつたことが、結果としてはまづかつた。多木の気持ちをいらだたせていた。辰馬英子が宇津康子とまったくがつたタイプの娘だったら、彼はもつと虚心にふるまえたかも知れなかつた。

多木は、英子と二人きりになつても、しばらくは、話しかけもせず、ただ意味もなく煙草を吹かしたり、ビールを呑んだり、独り勝手にふるまつていた。野暮な話であが、英子のほうは、多木の気持ちを知つてか知らず

両親も、やっぱり、この土地の方ですか」

多木はたずねてみた。両親が地元の人間なら、この娘はまず正真正銘の地元っ子だといえる。英子はうなづいた。

「生れた兵庫のほうなんんですけど、戦前からずっと、会下山といふところに住んでるんです。あたしも、そこで生れました」

「会下山って、神戸のどの辺ですか」

「そうね。神戸のちょうど真ん中あたりにある、低い裏山なんです。むかし、湊川の合戦で、楠正成が討死したのが、会下山のあたりだといわれていますわ」

「なるほど。ふるい歴史のある山なんだな。でも、お宅は、戦前からっていうと、戦争中の空襲で焼けなかつた? 神戸はほとんどやられたんでしよう」

「ええ。なんでも、父の話では、あのとき、会下山一帯も、周囲を火にかこまれ、火の輪がだんだん縮まつてきて、一時は、もう駄目だと、父も懲念したそうです。父は二階の物干場にてて、焼夷弾がおちてくるのを監視してたそだけど、そりや、すごい眺めだったたといつてましたわ。焼夷弾って、飛行機から束になつておちてきて、空中でぱつと花火のようにはじけるんですつて。そういう花火が、真っ暗な夜空につきつとはじけて、まるでカラー映画で両国の花火大会をみているように壯觀だったそうです。でも、火の勢いって、生きてるみたいにこわいものなのね。広い道路でも、火の手が真っ赤な舌のよう地面を舐めて、どつと反対側の建物に燃え移るんですつて。父はもう無我夢中で、夜があけてから、やつと、自分の家のあたりが焼け残っていたことに気づいたなんていつてましたわ」

英子は、興に乗つたよう語つた。

多木は、はるばる神戸までやつてきて、地元の若い娘から空襲の話をきかされようとは、思つてもみないことだつた。だが、彼は興味ありそうな顔で、黙つてきていた。これもまた、旅にてて、その町をたずねなけれ



か、なんのこだわりもみせなかつた。多木のコップがカラになつたのをみて、

「どうぞ」

と、英子は、かけりのない、明るい笑顔で酌をしてきた

「やあ、どうも」

と、多木も、釣りこまれたように微笑をかえしていた。

企まずして、多木の気分をいくらかでもほぐしてくれた結果になつた。これ以上の沈黙は、多木の気持ちのほうが許さなくなつた。

「辰馬さんは生粋の神戸っ子だとおっしゃてたけど、ご

ば、きかれぬ話にちがいなかつた。
「そうだわ。父の話で思いだした、おもしろい話があるわ」

英子は、ジンフィーズを呑みながら、また話をつづけた。

「それは、空襲もすんで、ちょうど八月十五日の敗戦のことなんです。夕方、父は、戦争に負けてしまつて、町のなかがどうなつてゐるか。様子を見にでかけたんですつて。市電なんか焼けてしまつて、もちろん、とおつてないし、会下山から、焼け跡の道を歩いて、東のほうの三宮まででかけていったんだそうです。途中、新開地、楠公前、元町と、どの道筋にも、人がいっぱいあ

ふれていたけど、みんな、敗戦のショックで虚脱したみたいになり、人の群れが、まるで長い長い葬式のように流れていたそうです。どの顔も、すすけたようにやつれきつて、うす汚れた国民服やモンペ姿で、父は、その人波にもまれながら、つくづく敗戦国民のみじめさを味あわされたと言つてました」

この娘は、なにを語つてきかせようというのか。多木は、そんな興味を抱かせられた。英子は言葉をついだ。父は、元町の通りから、国電の、当時は省線つていつたんですつてね。その省線の元町駅にて、高架下を三宮駅のほうへいったんです。そして、三宮駅のすぐちかくのガード下まできたとき、ふといコンクリートの柱のかけに、黒いシナ服をきた六十ぐらゐの小柄なおばあさんが、なにかふくらんだ風呂敷を両腕にかくすよ

うにして立つていたんですつて。そのシナ服のおばあさんは、しわだらけの顔で、ガード下を往き交う人の波に、なんとなく無言の呼びかけをしてゐるよう、チラチラと素早い視線を投げかけてゐるんです。おばあさんは、いったい、なにをしていたとお思いになる?」

英子は、聞き手の多木の反応をためすようになすねた。多木は正直に首をぶつた。

「わからん」

「むろん、父もわからず、すこしはなれてみてはいたんですけど。すると、まもなく、人波のなかから、工員風の中年の男が、あたりの気配をうかがうようにして、おばあさんのまえにちかづき、二人は顔をよせて、なにかさやきあつていたそうだけど、やがて、中年の男はポケットからおカネをとりだし、おばあさんは風呂敷を包みからなにやらとりだした。それを見て、父は思わず目をみはつたそうです。おばあさんがとりだしたのは、油であげた、おいしそうなシナ饅頭だったんです」

「なるほど。闇の商売をやつてたんだな」

「そうなのよ。中年の男が立ち去ると、こんどは若い男があらわれ、つづいて、三、四人の男がおばあさんをと



り囁み、たちまち、人垣がおばあさんの小柄な身体をかくしてしまったそうです。なかには、おばあさんから買つた饅頭を、その場で、ガツガツと貪りたべている人もあつたそうです。父はなんだか背筋がうそ寒くなつたといつてましたわ」

「なるほどね。八月十五日の夕方つていえば、日本が敗れてから五、六時間しかたつていなかつたわけだな」

「そういうことになるわね。ところがね、父が翌日もいつてみると、驚いたことに、おばあさんのそばに、もう四、五人のおなじような仲間が立つていてたのよ。その翌日には、四、五人が十人ほどにふえ、その翌日には、またぐらにふえて、またくまに、三宮駅から元町駅、神戸駅あたりまでのガード下に、えんえんと闇市がのびていつたの」

「そうすると、戦後全国に出現したつていう闇市の輝かしいバイオニアは、そのシナ饅頭売りのおばあさんだつたというわけだな。おそらく敗戦五、六時間後のその時点で、街頭で闇商売をやつていたのは、全国でも、そのおばあさんただ一人だつたろうな」

「そうね。父もね、そのシナ服のおばあさんのたくまし

い商魂には、圧倒された思いで、ああ、日本は敗れたんだなあ、と、つくづく思い知らされたと言つたわ。でもね、当時の闇市は、いまでも、三宮のガード下の商店街になつて、当時の名残りをとどめているわ」

話しあつてゐるうちに、いつのまにか、二人は、言葉までうちとけたものになるほど、馴染みあつていてた。

多木は、この娘を見直す思いで、辰馬英子といふ女のなかから、ようやく、宇津康子のイメージが影を消していくようであつた。

「当時の闇市の名残りが生きているという、その三の宮の商店街をみたものだなあ」

こんどは、多木が、英子の反応をためすようになすねていた。

「辰馬さん。あす、時間ある？ あつたら、案内してほしいなあ」

多木は、一瞬、ひそかに息をひそめるようにして、辰

馬英子の返答を待つた。

(つづく)

〈神戸の催し物 6月ご案内〉

〈音楽〉

★カーニバル・イン・リオ

6月3日(木) P.M.6:00~9:00開演 神戸国際会館
入場料 S.2,000 A.1,500 B.800

★ビリーポーン楽団

6月7日(月) P.M.6:30開演 神戸国際会館
入場料 A.¥2500 B.¥2200 C.¥1800

〈曲目〉 浪路はるかに、時の幌馬車、星をもとめて、真珠貝の歌、恋は水色、慕情、モア、知りたくないの他

★ザビアクガート楽団

6月15日(火) P.M.6:30~9:00開演 神戸国際会館
入場料 S.2,300 A.1,700 B.1,500 C.1,200 D.900

★鉄砲光三郎ショー

6月16日(水) P.M.7:00~9:00開演 神戸国際会館
会員券 650円

★エクトルバレーラタンゴ楽団

6月21日(月) P.M.6:30~8:30開演 神戸国際会館 民音
会員券 850円

★ボビューラー名曲の夕 大阪フィルハーモニー交響楽団
6月23日(水) P.M.6:30開演 神戸国際会館 労音
会費 1000円

指揮 外山雄三

プログラム——フィンランディア・モルダウ、ハンガリー舞曲 No.5.6 スラブ舞曲、ハンガリー田園幻想曲、大序曲 1812年他

★NHK公開放送「あなたのメロディ」

6月24、25日 P.M.6:00~9:00開演 神戸国際会館

★ペッティ&クリスと共に

6月29日(火) P.M.6:30開演 神戸国際会館 労音
会費 980円

出演——ペッティ&クリス フォークギター 石川鷹彦
ベース 吉田勝宣、特別出演 地元フォーク・グループ

★ベルリオーズ幻想交響曲

6月30日(水) P.M.7:00~9:00開演 神戸国際会館
会員券 750円

〈演劇〉

★ターニヤ

6月13、14、15日 P.M.6:15開演(13日のみ P.M.1:15
開演) 神戸海員会館 劇団四紀会第17回公演

前売券/一般 450円、高校生以下 350円
作/アルブノフ 駅 芦川嘉久子 演出北島三郎

★民芸公演「神の代理人」

6月17、18、19日 P.M.6:15~9:00開演 神戸国際会館 労音
会員券 650円

ホーホーフ作 渡辺浩子演出

出演——滝沢修、清水将夫、大滝秀治、下条正己、佐野浅夫、垂水悟郎他

〈舞踊〉

★神戸創作舞踊の会第1回公演「炎の詩」

6月6日(日) P.M.1:00、6:00開演 神戸国際会館
入場料 A.¥2000 B.¥1000

作・演出 岡田真代作詩 安水稔和 作曲 中村茂隆
装置 板矢真紀 衣裳 藤木ハルミ

出演——上月倫子 花柳芳叟 花柳芳恵一子 今岡頌子
〈美術〉

★エミリオ・グレコ名作展

5月29日~6月27日 県立近代美術館

入場料 大人 350円、学年 250円、小・中学生 100円
A.M.9:30~P.M.5:00(但し入場は4:30)まで会期中無休

神戸のうまいもんとドリンク

★日本料理

阿なご寿司 青辰
神戸市生田区元町通3-184
TEL 33-3435

讃岐名代うどん あこや亭
神戸市葺合区旗塚通7-5
トアロード店 TEL 23-6300

和食くれな
い
神戸市生田区中山通1-1-111
TEL 33-0494

かっぽう 古紋
神戸市生田区花陽町45
TEL 34-0240

鍋ものおむすび 悟味西
神戸市生田区北長狭通1の20
三宮さんちかタウン TEL 33-3848
TEL 39-5319

お茶漬・おむすび
鍋もの 小る里
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 33-5535

たこ焼たちばな
三宮センター街(旧柳筋) TEL 33-0572

和風料理 樂樹
神戸市生田区下山手通3丁目41
トアロード西筋踏路交通入る TEL 39-8649

料亭 大し
葺合区熊内町6丁目39の6
TEL 22-1360-39-1495

割烹喜久重
生田区元町通2丁目82
TEL 33-1915-39-3385

★西洋料理

レストラン アボロン
神戸市葺合区八幡通5丁目6
TEL 25-3231

レストラン 川^{あらかわ}
神戸市生田区中山手2-9
TEL 22-8547-23-3315

純フランス料理 工スカルゴ
神戸市生田区三宮町1-22
三宮センター街裏 TEL 33-5034

メンバーズクラブ
レストラン・コーヒーショップ
ルカ・カルトン
生田区北野町3-67-2
TEL 24-4321-4

ステーキハウス れんが亭
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 33-7168

レストラン 男爵
神戸市生田区中山手1-18
山手第一ビル1F TEL 24-0778

レストラン 花屋敷
三宮フラワーロード市役所前
TEL 25-2109

鉄板グリル きやんどる
神戸市生田区北長狭通2-22
TEL 33-1183

レストラン キングスアームス
神戸市葺合区磯坂通4-61
TEL 22-3774

グリル ケーンズ
東店 生田東門筋 TEL 39-0159
西店 農業会館西下ル TEL 39-3212

レストラン シャトーブリアン
神戸市生田区北長狭通3丁目5番地
トアロード アーバンビル地階 TEL 33-2050

レストラン&サバ サン・ジュリアン
神戸市生田区栄町2丁目11
阪神元町駅西口浜側
100米桜庭地下 TEL (33) 9533

グリル・鉄板焼 月
神戸市生田区北長狭通1-24
生田神社前 TEL 33-2509

レストラン テキサスター・バン
神戸市葺合区八幡通5-95
神戸市役所前 TEL 22-7139

イタリア料理 ドンナロイイヤ
神戸市生田区明石町32
明海ビル地階 TEL 33-7158

レストラン ハイウェイ
神戸市生田区下山手2-20
TEL 33-7622

ピッツアハウス ピノツキオ
神戸市生田区中山手2-101
TEL 33-3545

レストラン フック東店
神戸市生田区栄町1-5-3
TEL 32-3207

ティー レストラン 那美
三宮トアロード
TEL 39-1873

レストラン ミリオナーラブ
生田区山本通2丁目50の2
レストラン 23-9393-5
メンバーズ 22-1162

★喫茶

フレーバー ウエスタン
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 33-3770

宮水の
ゴーヒー
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 22-1872-23-9524
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 39-0669

modern Jazz & Coffee
生田区北長狭2-22 TEL 33-9762

カフェ・スポット サンフラワー
神戸市生田区・花時計地下
TEL 33-7794

Cowboy Song Square Dance
COWBOY
阪急六甲駅南へ 200メートル
TEL 85-8229

★CLUB & BAR

くらぶ 阿以子
神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 33-6069

club 飛鳥
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 33-7627

club S(エス)
神戸市生田区下山手通2丁目6
TEL 33-2406-33-8993

club 工ドワーズ俱楽部
神戸市生田区北長狭通1丁目28
ホワイトローズビル5・6F
生田新道 TEL 39-3300

club 小万
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 39-0638-4386

club さち
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 33-7120

クラブ ジヤルダン
神戸市生田区中山手通1丁目111
TEL 33-8589

club ルイス
神戸市生田区下山手通2丁目29
コベビル地下 TEL 39-5065

クラブ 鈴
生田区中山手1丁目111 TEL 33-2403

club なぎさ
神戸市生田区中山手通1丁目111
TEL 33-8626

club 薙^ふき
神戸市生田区下山手通2丁目
TEL 39-1515

くらぶ ぶーげん
神戸市生田区中山手通1-1-111
TEL 33-8593

club Moon Light
神戸市生田区北長狭通1丁目24
TEL 33-0886-39-2696

クラブ るふらん
神戸市生田区北長狭通1丁目53
TEL 33-2854

クラブ ヤングベル
神戸市生田区中山手通2丁目89
光ビル1階 TEL 33-3052

★STAND & SNACK

スタンド 英国屋
生田区下山手通2-6
相互タクシー横
TEL 33-1100-33-6600

スナック エルソタノ
神戸市生田区下山手通 TEL 33-6620

スタンド 人魚
生田区中山手1-240
TEL 33-3756

スタンド グラムール
生田筋岸ビル地階
TEL 33-4637

おとぎの国 ぴーたーぱん
神戸市生田区北長狭通2丁目1
金剛山南角 TEL 32-1380

スナックバー リチャード
神戸市生田区山本通1丁目9
小寺マンション1F TEL 24-3041

スタンド さりげなく
生田区下山手通2丁目31
生田筋上高地西入る TEL 33-3714

グラタン小屋 5つの銅貨
神戸市生田区北長狭通2-14
金剛山西入ル TEL 33-1438

スナック ビジーピー
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 39-4582

スタンド 京子
生田区中山手1丁目91サッポロ西隣2F
TEL 33-6635

スナック シルクロード
神戸市生田区山本通2丁目
ふじやビル2F TEL 33-1359

洋酒の店 キヤンティ
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 39-3060-39-3010

DRINK SNACK
スネカリコ子
神戸市生田区下山手通2丁目
永晃ビルB1 TEL 39-8708

Stand&Snack
サントノーレ
生田区下山手通2丁目トア・ロード
TEL 39-3822

素舌洞
でつさん
神戸市生田区北長狭通1丁目255
三宮映劇場入る TEL 33-6778

STAND
アトラス
生田区中山手通1丁目95
TEL 33-5433

プレイスナック
バレンタイン
神戸市生田区中山手通2丁目101
大洋ビル2階 TEL 32-2967

STAND
FANFAN
神戸市生田区下山手通2丁目29
TEL 39-1410

night cap
むらかみ
神戸市生田区加納町4丁目
但馬銀行北小路入 TEL 39-2616

スタンド
クラブ・ガーデニア
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F TEL 39-3329

SNACK
山の手
神戸市生田区中山手通1丁目
ソネビル1F TEL 22-3637

スタンド
ばんぶー
神戸市生田区下山手通1丁目6の5
東新ビル地階 TEL 39-8734

淳子の店
娑羅(SARA)
生田区中山手1丁目91
TEL 39-1647

SNACK
ダントディ
神戸市生田区・農業会館西筋上ル
天野ビル2F TEL 33-6450

SNACK
マゼラン
神戸市生田区加納町4丁目1
TEL 39-2366

snack
MORE MORE
神戸市生田区中山手通1丁目107
TEL 33-4728

レストランバー
最後の1ドル
神戸市生田区北長狭通1丁目
チエリービル3F
三宮生田新道山側 TEL 39-2173

YATSUKA CHAIN



Snack Drink
DOGA

白樺のもとで語りあい、ムードも最高に楽しめるお店
生田神社南 ユーハイム横入る TEL 33- 4560



Drink Stand
2 base

古きヨーロッパ芸術の粹をあつめた格調あるインテリア
三宮東門筋東新ビル地階 TEL 33- 9090

●串かつの店
いち

タ TEL34-1493
いち

湊川神社前 菊水せんべいビル地階

●純喫茶 スカーレット TEL35-1149

湊川神社前 菊水せんべいビル 1F

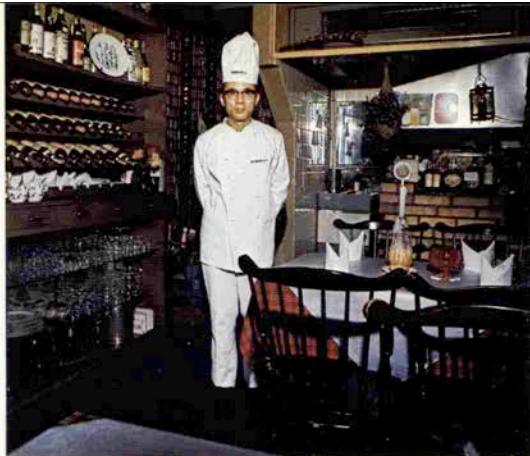
●カレーショップ ニュースカーレット

メトロコウベ地下街 TEL34-7920



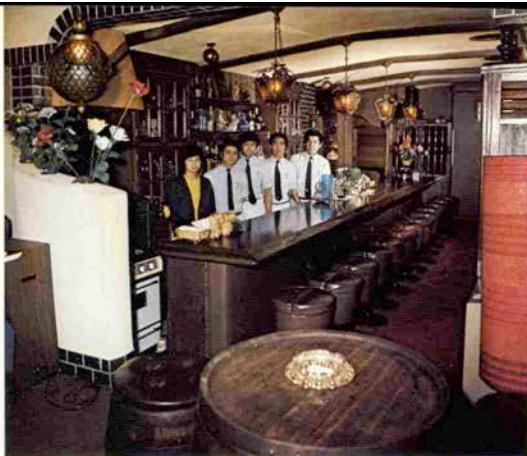
舶来居酒屋
ロンドンパブ

神戸で最初の本格的パブ方式の店。
東門筋ふじやビル 1F TEL 32- 0529



HOOK フック 東店

神戸市生田区栄町 1-5-3 TEL (078) 32-3207-8



DRINK & SNACK
スネカリッシュ

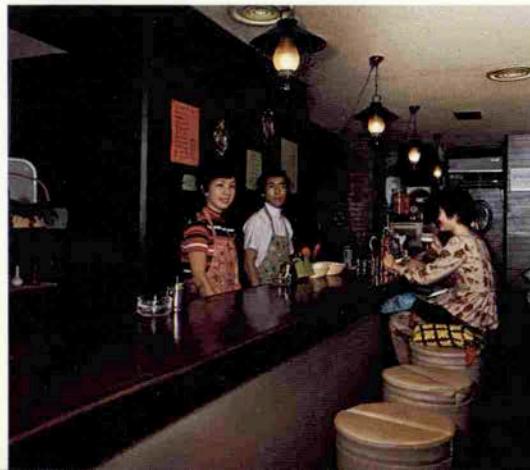
中山手通2丁目13
永見ビル地下
TEL 39-8708

KOBE DRINKING GUIDE



こあべつ

阪急三宮駅
西口構内
TEL. 39-0770



club

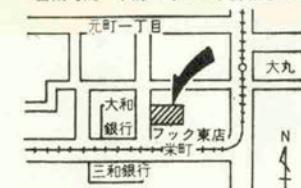
ルイス

生田区下山手通2-29
コウベビル地下
TEL 39-5065

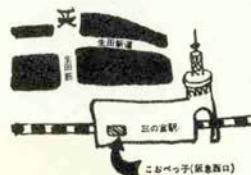


★初夏の息を感じさせる神戸の街に、瀬戸内海の潮風にのって各国の色とりどりの観光船が入港し、栄町通りは日焼けした国際色豊かな人達で一段とにぎわう。その中でも栄町通り二丁目の大和銀行を北に入った右にある、レストラン“フック東店”はステーキの味に故郷を偲ぶエトランゼや、味に目のない神戸っ子たちでいつもいっぱいだ。ヨーロッパムードの溢れる落ち着いたインテリアは、おいしい神戸ステーキやスイス生まれのフォンデュ鍋を心ゆくまで味わうのにぴったりのムード。お友達と、あるいはご家族連れで初夏のフックの味覚をお楽しみ下さい。

営業時間 午前10時から午後零時まで。



フック東店



こおべっ子

★神戸は夏の町だ。青い海と緑の山々に夏の強い陽さしが映ヘレジャーに、スポーツにと若者の心をかきたてる。阪急西口にあるティールーム“こおべっ子”は潮の香をただよわせて小麦色に日焼けした健康的なサラリーマン、オフィスレディ、学生たちでいつもいっぱいだ。お店の前の西口広場は交通の便もいいとあって絶好の待ち合せ場所。友達と、恋人と、そしてエトランゼとの待ち合せはいつも楽しい。そんな楽しいひとときのムードづくりをこおべっ子のかわいいママの順子さんたちがいつもおてつだいしてくれます。心のこもった、安くておいしい軽食や飲みものが豊富に用意されていますのでお気軽に御利用下さい。

コーヒー¥100、ビール¥150、角水割¥150、カレー¥150、

焼めし¥150、スパゲティ¥150

A.M.8:00~P.M.10:00 但し日曜日はP.M.6:00オープン

★太陽の陽さしが一段と強くなり、夏の息吹を感じさせるさわやかな季節。生田新道農業会館向いに誕生した“スネカジリッ子”もこの6月10日で満2周年を迎える。お姉さんの後を引きついだ弟の則吉君は昼間は学校に通い、夜はここでみんなのリーダーとして働くがんばり者。ゆったりとした落ち着いた空間に若くてダンディなパートさんたちのきびきびとした動作が大変フレッシュな感じを与える。五月には店内も改装され、一段ときれいになった。一度足をはこぶとすっかり魅了されてしまう不思議な店、と若い人から御年配の方までファンも多い。

水割G & G ¥ 300円、ビール(小)¥ 200円、おつまみ¥ 100円

ピツツア¥ 350円、ミニチュアビン(W)¥ 500円

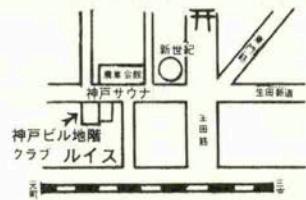
P.M. 5:30~A.M. 1:00 第1、第3月曜日休み



スネカジリッ子

KOBE
GUIDE

ルイズ



★さわやかな初夏の風が夕やみせまるネオン街に吹きぬけていく。生田新道、神戸ビル地階にあるクラブ“ルイズ”はデラックスなインテリアとムードあふれるスペースでハイモードのクラブの雰囲気を心ゆくまで楽しめる場所。柔らかなトーンのソファで、ホステスが注いでくれるグラスを傾けながらかわす会話があなたをつつみ、時間の経つのを忘れさせてしまう。神戸で初めてのハモンドオルガンが飲む人の心に音楽とリズムをよびおこしホステスとお客様とがひとつになって楽しめる場所、それはルイズだけのものです。こんな素晴らしい仲間にお入りになりませんか。

日曜・祭日は休ませていただきます。